【各教科等のグランドデザイン】

国語科

何ができるようになるか
○国語科で育成する資質・能力

○日常生活に必要な国語（言葉の特徴や使い方・情報の扱い方・我が国の言語文化）について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
○日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
○言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

何が身に付いたか
○国語科の学習評価

○言葉の特徴や使い方・漢字・語彙・言葉遣い・表現の技法・音読、朗読など、学年に応じて適切に使う技能
○日常生活における人との関わりの中で伝え合う機会を意識的に作ったことにより、話題、題材設定・情報収集・内容、構成検討・考えの形成・共有などの思考力・判断力・表現力
○言語感覚を養い、国語で学んだことをこれからの学習に生かそうとする態度

子ども達の実態

○前向きに考え友達と協力して活動できる子が多い。
○ICT を活用して、調べたりまとめたりする子が得意な子が多い。
○学習したことを日常生活に活用する意識が希薄。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○写真や絵、動画など資料を視覚的に分かり易くする。
○小グループで話し合い活動を行う際は、個々の特性に応じて配慮する。

目指す子ども達の姿

○子ども達が目的意識をもって学習に取り組む。
○学び方、学んだことを振り返る。
○根拠をもとに学び合い高め合う姿
○学んだことを学習や生活に自ら進んで生かす。

何を学ぶか　○国語科の教育課程の編成

○言葉の特徴や使い方に関する事項
・言葉の働き・話し言葉と書き言葉・漢字・語彙・文や文章・言葉遣い・表現の技法（高学年）・音読、朗読
○情報の扱い方に関する事項（中・高学年）
・情報と情報との関係・情報の整理（中・高学年）
○我が国の言語文化に関する事項
・伝統的な言語文化・言葉の由来や文化（中・高学年）・書写・読書

どのように学ぶか　○国語科の授業の実施

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成を目指す。
○授業のつながり
・国語の授業だけでなく、各教科・道徳・総合・特活などの学習や活動と関連させて取り組む。言語活動では、「話す」「聞く」「記録する」「説明する」「書く」などの活動が想定される。
○人とのつながり
・自分の感情や思いを相手に話したり、文章で伝えたりするときに、例えば相手の立場や思いを尊重する視点も必要になる。そのようなときは語句や語彙など言葉の特徴や使い方に関する事項と関連させて考えるようにさせることができる。
○「学びの場」のつながり
・身に付いた資質・能力を幼保小連携やや中学校での学びの場で生かせるように、幼保小中連携の視点を充実させる。（例）就学前園児の参観・中学校との情報交換など

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○単元を貫く言語活動にするために、相手意識・目的意識を明確にした学習計画を立てる。○知識を身に付けるだけでなく、日常生活に活用できるようにする。
○必要に応じて、家庭・地域と関連付けて協働的に調べたり表現したりできるような学習内容を計画する。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高める。（例えば外国語との関連を図ることによって、日本語の特徴や言語の豊かさに気付く）○読書意欲を高め、日常生活の読書活動につながるようにする。○モジュールを活用して繰り返し練習・読書・発表練習・取材活動などを位置づける。○ＩＣＴの活用（情報収集・取材や実際に話す場面での活用）　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

社会科

何ができるようになるか
○社会科で育成する資質・能力

○社会的事象等に関する理解を図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能
○社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法
○主体的に学習に取り組む態度と多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情などを養う。

何が身に付いたか
○社会科の学習評価

○各地域ごと、各産業ごと、または現代と過去の歴史など、比較し関連付けながら社会的事象に関する知識を定着させ、課題に対して自分の言葉でまとめる技能を身に付けようとしている。
○社会的事象に対して、なぜそのようなことが起こったのか自分なりの考えをもち、その課題解決に向けて調べ、友達との意見交換を通して考察を深めている。
○自分の思いや願いを大切にし、身近な話題や興味関心が得られるような例から学ぶことで、自ら学習に取り組もうとし、多面的に物事を考えようとしている。

子ども達の実態

○単元を貫く学習問題をもつことの必要性
○知識を身に付けるだけでなく、日常生活に活用する。
○学習を通して、社会的事象に触れる機会を増やす。
○人とつながることに苦手意識がある。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○写真や絵、動画など資料を視覚的に分かり易くする。
○体験を通した活動などを増やし、興味・関心を高める。

目指す子ども達の姿

○子どもたちが見通しをもって学習に取り組む。
○学び方、学んだことを振り返る。
○学んだことを学習や生活に生かす
○人の営みを通して社会的事象の特色や意味に迫る。

何を学ぶか　○社会科の教育課程の編成

第３学年…①身近な地域や市区町村の様子　②地域に見られる生産や販売の仕事　③地域の安全を守る働き　④市の様子の移り変わり
第４学年…①都道府県の様子　②人々の健康や生活環境を支える事業　③自然災害から人々を守る活動　④県内の伝統や文化、先人の働き　⑤県内の特色ある地域の様子
第５学年…①我が国の国土の様子と国民生活　②我が国の農業や水産業における食料生産　③我が国の工業生産　④我が国の産業と情報　⑤我が国の国土の自然環境と国民生活
第６学年…①我が国の政治の働き　②我が国の歴史上の主な事象　③グローバル化する世界と日本の役割

どのように学ぶか　○社会科の授業の実施

事実を見つめそこから生み出される子どもの問いから学習を進めていくことを念頭に、実際に現場へ行きそこで働く人の声を聞いたり、その場所を見学したりすることで、興味関心を高めていく。また、資料を活用し実態に迫ることで、社会的事象を自分事として捉え学びを深めていく。
第３学年…地域探検・地元の商業施設の見学・古民家見学など
第４学年…ゴミ処理場や警察署の訪問、校内の備蓄庫の見学、県内の伝統工芸の職人の話など
第５学年…漁港の見学、工場見学、間伐の活動など
第６学年…市議会、国会議事堂訪問、鎌倉見学、日光への宿泊学習など

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○社会的事象等に関する理解を深めていくために、社会科見学や体験学習を計画的に学習に取り入れる。（必要に応じて出前授業なども取り入れる。）
○ごみの分別や、仕事調べなど家庭や地域の協力を得て、資料を取得し活用していく。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○生活経験や他教科とのつながりをもたせた学習計画を立てる。　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

算数科

何ができるようになるか
○算数科で育成する資質・能力

○数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質及び日常の事象を数理的に処理する技能
○日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力
○数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度

何が身に付いたか
○算数科の学習評価

○数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質及び日常の事象を数理的に処理する技能が身に付きつつある。
○基礎的・基本的な知識技能を身に付けるだけでなく、学習したことを活用する力を高めることができるように指導を続ける必要がある。

子ども達の実態

○算数の授業に対して興味・関心をもっている児童が多く、全体的に見て一生懸命学習内容を理解しようと努めている。
○自分の考えを皆の前で説明できる児童も多いが、理解はできていても自信がもてなくて手を挙げられない児童も少なからずいる。
○高学年では、少人数学級であれば発言できる児童であっても、多い人数の中ではなかなか力が発揮しきれない児童もいる。中には個別に指導が必要な児童もいるのでパワーアップ教室で個別に指導を受けることで力をつけている。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○答えを導くための道筋が見えるようなヒントカードを活用する。
○視覚的に理解しやすい教材を用意したり、具体物を操作できるようにしたりする。

目指す子ども達の姿

○今まで学習したことを生かし、自分の力で問題を解決しようと取り組む姿。
○自分の考えを、根拠をもとに友達に伝えようとする姿。
○友達との学び合いを通して、友達の考えも吸収しながら学びを深める姿。

何を学ぶか○算数科の教育課程の編成

A 数と計算（加法、減法、乗法、除法、文字式等）
B 図形（三角形～多角形、円・球、垂直・平行、合同、拡大図縮図等）
C 測定（１～３年：長さ、広さ、かさ、重さ、時刻等）
C 変化と関係（４～６年：折れ線グラフ、割合・百分率、比例・反比例等）
D データの活用（データの分類・整理、棒・折れ線・円・帯グラフ等）

どのように学ぶか○算数科の授業の実施

○各学年の系統性を生かし、既習事項を振り返りながら学習する。
○日常の事象を数理的に捉え、必要感をもって問題解決に取り組む。
○具体物の操作、測定などにおける体験的な活動、学習したことを実生活において活用するなど、活動を通して知識や技能等を身に付ける。
○自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表し友達に理解できるよう図や式を用いて表現したり、友達の考えを取り入れて自分の考えを深めたりする。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○児童に興味関心をもたせるような教材研究　○必要感をもって問題解決に取り組めるようにする課題設定　○日常生活で活用するための家庭との連携

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○他教科で学ぶ知識や活動とのつながりをもたせた学習や活動の設定　　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

理科

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

○自然の事物・現象についての理解、観察・実験などに関する基本的な技能
○観察、実験などを行い、問題解決をする力
○自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

○既習の学習や放送番組のモデル化を通して、自分なりに実験方法を考える力が身に付いてきている。
○問題解決のためのプロセスが定着し、課題に立ち返りながら学習を進めたことで、問題解決をする力が高まった。
○既習と関連させて予想や実験方法を考えたことや ICT の活用により、一人ひとりが自信をもって学習に取り組む姿が見られるようになった。

子ども達の実態

○意欲的に実験、観察に取り組む児童が多い。
○見通しをもって実験したり、解決方法を構想したりすることが難しい。
○自分の考えをなかなか伝えられない児童もいる。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○問題解決の流れの視覚化
○実験の目的、観察の視点の明確化
○結果のまとめ方の工夫

目指す子ども達の姿

○自然事象から疑問をもって、問題を見出す姿
○実験観察や友達との対話を通して、考えを深めていく姿
○学習したことを日常生活とのかかわりの中で捉え直し、理科を学ぶことの面白さや、有用性に気付く姿

何を学ぶか○各教科等の教育課程の編成

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とした内容構成
３年…風やゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の通り道、物の重さ、身の回りの生物、太陽と地面の様子
４年…電流の働き、空気と水の性質、金属、水、空気の温度、人の体のつくりと運動、季節と生物、雨水の行方と地面の様子、天気の様子、月と星
５年…振り子の運動、電流がつくる磁力、物の溶け方、植物の発芽、成長、結実、動物の誕生、流れる水の働き、天気の変化
６年…てこの規則性、電気の利用、燃焼の仕組み、水溶液の性質、人の体のつくりと働き、植物の養分と水の通り道、生物と環境、土地のつくりと変化、月と太陽

どのように学ぶか○各教科等の授業の実施

○共通点や差異点をもとにして、問題を見出せるように、導入を工夫する。（第３学年を中心に）
○根拠のある予想を発想できるように、既習事項を整理したり、関係のありそうな身の回りの自然事象、生活経験を想起させたりする。（第４学年を中心に）
○予想や仮説をもとに解決方法を構想できるように、目的を明確にして条件に目を向けさせたり、これまでの学習経験を生かせないか問いかけたりする。（第５学年を中心に）
○より妥当な考えをつくりだせるように、実験や提示する資料を工夫して多面的に調べていく。（第６学年を中心に）

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○自然を愛する心情を育てていくために、植物の栽培や動物の飼育を計画的に学習に取り入れる。
○実感をともなった理解を促していくために、適切な実験や観察を行う。（必要に応じて出前授業なども取り入れる。）

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○生活経験や他教科とのつながりをもたせた学習計画を立てる。　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

音楽科

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

○生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力
・曲想と音楽の構造などの関わりについて理解し、表したい音楽表現をするために必要な技能
・音楽表現を工夫することや音楽を味わって聴くことができる力
・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

○曲想と音楽の構造などの関わりなどの知識や、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりする技能
○音楽を形づくっている要素を聴き取り、思いや意図をもった演奏をしたり、音楽を味わって聴いたりしている姿
○主体的・協働的に音楽表現及び鑑賞の学習活動に取り組む姿

子ども達の実態

○音楽表現に対する前向きな姿勢
○自分の思いや考えを伝えるための技能を持ちながらも、表現の仕方や自由な音楽表現に戸惑う姿

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○個の技能に合わせた表現方法を見つけ、寄り添った指導
○音楽表現の多様性を認め合える関係づくり

目指す子ども達の姿

○自分の思いや考えを伝えようと、さまざまな音楽表現を用いて取り組む姿
○友達と合わせて演奏しようとしたり、音楽のよさや美しさを共有しようとしたりする姿

○９年間を見通した「学習の主題」は学習内容の系統性を踏まえながら同じ「学習の主題」を年間で複数回設定し、積み重ねながら学習していくように配列する。
○「学習の主題」は２年間通して学習する。
○領域
　A　表現　（１）歌唱　（２）器楽　（３）音楽づくり
　B　鑑賞
　我が国や諸外国の音楽

どのように学ぶか
○各教科等の授業の実施

○表したい音楽表現や音楽のよさなどを見いだす活動を取り入れたり、イメージや気持ちの変化を喚起する要因となった音楽的な特徴を取ったりする活動を取り入れる。
○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことを共感したりする活動を取り入れる。
○児童が音や音楽に出会う場面を大切にするとともに、一人ひとりが音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽と主体的に関わりながら、知識を得たり生かしたりしながら音楽の意味や価値を考えていく。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○教科指導だけではなく、行事や学級活動などのあらゆる音楽活動の場面を活用しようという職員の意識
○子どもの様子をよく観察し、言動を価値づけして児童に返していく場面を増やす

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○音楽活動を通して、集団の中での自分の役割を意識し、将来に向けての夢や希望をもち、実社会での確かな目標をもてる児童の育成をはかる
○「学習の主題」による題材構成で、小中９年間を通して目指す音楽科の資質・能力や子どもの姿を具体化して共有する。　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

家庭科

何ができるようになるか
○家庭科で育成する資質・能力

○日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費 や環境等についての基礎的な理解と技能
○日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力
○家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度

何が身に付いたか
○家庭科の学習評価

○生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能
○日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力
○家庭生活を大切にする心情
○家族や地域の人々と関わり、協力しようとする力

子ども達の実態

○前向きに考え友達と協力して活動できる子が多い。
○ICT を活用して、調べたりまとめたりする子が得意な子が多い。
○学習したことを日常生活に活用する意識が希薄。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○実践的・体験的な活動を通して、考えるようにする。
○ペアやグループで話合いや活動を行い、個々の特性に応じて配慮する

目指す子ども達の姿

○目的意識をもち、計画的に課題解決に取り組む姿
○工夫・改善しながらよりよく課題解決しようとする姿
○学んだことを振り返り、生活に進んで生かそうとする姿。

何を学ぶか　○家庭科の教育課程の編成

A　家族・家庭生活
(1)自分の成長と家族・家庭生活　(2)家庭生活と仕事
(3)家族や地域の人々との関わり
(4)家族・家庭生活についての課題と実践
B　衣食住の生活
(1)食事の役割　(2)調理の基礎　(3)栄養を考えた食事
(4)衣服の着用と手入れ
(5)生活を豊かにするための布を用いた製作　(6)快適な住まい方
C　消費生活・環境
(1)物や金銭の使い方と買物　(2)環境に配慮した生活

どのように学ぶか　○家庭科の授業の実施

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す。
（１）　授業のつながり
・各教科・道徳・総合・特活などの学習や活動と関連させて取り組む。家庭科の学習対象である生活事象を、「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築等」の視点でとらえ、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫しようとする資質・能力を育成する。
（２）人とのつながり
家族・地域の人々との関わりを考え、課題を解決したり、家庭実践の計画を立て取り組んだりする。
（３）「学びの場」のつながり
・身に付いた資質・能力を家庭で実践しようとしたり、次の題材や単元で生かそうとしたりする。また、中学校での学びの場で生かせるように、小中連携の視点を充実させる。中学校との情報交換など

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○題材を貫く学習活動にするために、相手意識・目的意識を明確にした学習計画を立てる。○衣食住に係る知識及び技能を身に付けるだけでなく、日常生活に活用できるようにする。
○必要に応じて、家庭・地域と関連付けて協働的に調べたり表現したりできるような学習内容を計画する。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高める。（例えば給食との関連を図ることによって、栄養バランスに気付くなど）○道徳との関わりを明確にし、日常生活へのよりよい活動につながるようにする。○ＩＣＴの活用（情報収集・取材や実際に話す場面での活用）○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

体育科

何ができるようになるか
○体育科で育成する資質・能力

○各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
○運動や健康についての自己の課題を見付け、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

何が身に付いたか
○体育科の学習評価

○各種の運動の行い方が身に付きつつある。
○運動や健康についての自己の課題を意識し、自分の言葉で表記したり友達に伝えたりする力が身に付きつつある。
○体育科や休み時間に体を動かし、健康の保持増進と体力の向上に取り組む様子が見られる。

子ども達の実態

○友達と協力したり、よさを見付けたりして、運動を楽しんで取り組むことができる。
○思考を具体的な言葉にし、相手に的確に伝えることを苦手とする子が多い。
○自分に適した課題の発見が定着していない。
○運動に苦手意識や自信のなさが見える子もいる。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○学習の流れの明確化
○ルールや場の工夫
○実態に応じた内容の選択

目指す子どもの姿

○運動の特性や行い方を理解したり、自己やチームの課題を解決するための技能を身に付け発揮したりしようとする姿
○運動を楽しく行うことができるように、友達と協力してルールや約束を守ったり、友達の作戦・取り組みのよさを認め支えあったりすることができる姿

何を学ぶか　○体育科の教育課程の編成

【低学年】体つくりの運動遊び、機械・器具を使っての運動遊び
走・跳の運動遊び、水遊び、ゲーム、表現リズム遊び
【中学年】体つくり運動、器械運動、走・跳の運動、水泳運動
ゲーム、表現運動、健康な生活、体の発育・発達
【高学年】体つくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ボール運動
表現運動、心の健康、けがの防止、病気の予防

どのように学ぶか　○体育科の授業の実施

【運動の価値や特性を理解し、今の自分の動きを分析する】自分の動きとモデルの動きの比較→自分(チーム)の課題発見
【課題の解決に向けて練習方法を考え、実践できるようにする】課題に合った条件(人数・時間・場・方法等)を設定→課題解決のための練習
【練習の成果を確認したり把握したりし、自己やチームの技能を高めることができるようにする】記録をもとに成果や課題をつかむ→課題解決のための練習【運動の楽しさや喜びを友達とともに味わう】リーグ戦、発表会等

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○生活経験や既習内容を意識した学習計画を立てる。　○豊かなスポーツライフを継続できるように、実生活や実社会に応じた学習を行う。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○情報・情報技術を活用する資質・能力　○協働して問題を解決しようとする資質・能力　○言語により分析し、まとめ、表現する資質・能力
○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

図画工作科

何ができるようになるか
○図画工作科で育成する資質・能力

○対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的に作ったり表したりすることができる。
○造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想したり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。
○生活や社会の中の形や色などと豊かに関わることができる。

何が身に付いたか
○図画工作科の学習評価

○「色・形・イメージ」を基にして、表現や鑑賞の活動を通して、作品や材料をよく観察したり丁寧に扱ったりする力や、友達と学び合う力。

子ども達の実態

○感じたことを素直に表現することに抵抗を感じる児童がいる。
○抽象的なものを想像することが苦手な児童がいる。
○試行錯誤しながら作品を粘り強く最後まで作り上げることが苦手な児童がいる。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○「感じる・試す・つくりだす」を相互に関連させた活動を組み立てる。
○「トライ＆エラー」を存分に経験することが良いと価値付ける。
○製作過程の見通しがもてるように、ICT機器等を活用すること。

目指す子ども達の姿

○身の回りに興味・関心をもち、経験を生かして創作する姿。
○感じたことを素直に表現する姿。
○試行錯誤しながら作品をよりよくするために工夫する姿。

低学年…材料を基に造形的な活動を思いつき、思いのままにつくる。
感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表す。

中学年…材料や場所などを基に造形的な活動を思い付き、工夫してつくる。
感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見付け、工夫して表す。

高学年…材料や場所、空間などの特徴を基に、造形的な活動を思い付き、効果的につくる。
感じたことや想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを見付け、主題を効果的に表す。

どのように学ぶか　○図画工作科の授業の実践

出あいの工夫……ひとつの題材との出あいが児童の造形活動へのモチベーションを高めるものになるよう、導入を工夫する。

場の設定の工夫……必要な材料や用具が整理して置かれている、必要な説明や既習事項の解説が児童の進度に合わせていつでも閲覧できるなど、場の設定を工夫する。

共感的支援の工夫…児童の自己肯定感・自己有用感を高められるよう、個別に聞き取って共感したり、相互鑑賞を生かして互いのよさを伝え合ったりするなどの活動を工夫する。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○図工室・図工準備室の整備、確保。
○家庭や地域へ材料や用具の収集・準備への協力要請。　○「感じる・試す・つくりだす」スパイラルの活動が設定された授業展開。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○生活経験や他教科とのつながりをもたせた学習計画を立てる。　○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

生活・総合

何ができるようになるか
○総合的な学習の時間で育成する資質・能力

○桜岡のまちには様々な文化や自然環境などがあり、それぞれが多様な特徴や魅力があることがわかる。
○それらは関わったりつながったりして存在していること、人々の思いや願いを理解し、よりより地域を構築しようとしていることが分かる。
○自ら課題を設定し、解決に必要な情報を収集し、比較したり分類したりしながら情報を整理・分析し、相手や目的に応じて分かりやすく表現する。
○課題を解決する過程で、自分の良さに気付き、他者の考えを受け入れようとする。○自分の成長を自覚し、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。

何が身に付いたか
○総合的な学習の時間の学習評価

○桜岡のまちやひとと関わることにより、生きて働く知識・技能
○解決に応じて必要な情報を収集し、相手や目的に応じて表現しようとする力
○課題を解決する中で、より新たな課題をもち、解決しようとする態度

子ども達の実態

○前向きに考え、友達と協力して活動することができる子が多い。
○ICT を活用して調べたりまとめたりすることが得意な子が多い。
○自分以外の「ひと」「もの」「こと」に探究的に取り組む経験が少ない。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○課題解決の流れの明確化
○協働して解決することのよさを味わう。
○人とつながるための事前準備

目指す子どもの姿

○探求的な学習の中で、問題を解決するための知識や技能を身に付け、学びや生活に生かそうとする姿
○対象とかかわり、自ら問いを見出し、課題を立てたり、情報を集めて整理・分析したりする力をつけるとともに、分かりやすく表現しようとする姿
○自分や友達のよさを実感し、積極的に社会に参画しようとする姿

何を学ぶか○総合的な学習時間の教育課程の編成

○生活の具体的な活動や体験を通して、自分自身や身近な人々、社会及び自然のよさに気付き、自らか関わり自分自身や身近なことについて考え表現すること。【低学年】
○桜岡のまちにある「ひと」「もの」「こと」の特徴や魅力、それに関わる人々の思いや願いとそれにかかわる人々の思いや願いとそれらの実現に向けた営みや行動　【中学年】
○桜岡のまちにある「ひと」「もの」「こと」の仕組みや意義、それを支える人々の考え方と維持発展に向けた努力と取組　【高学年】

どのように学ぶか○総合的な学習時時間の授業の実施

願いの実現に向かって、問題状況の中から課題を発見し、解決の方法や手順を考える【課題の設定】➡体験や調査など情報収集の手段を選択し、解決に必要な情報を収集する。【情報の収集】比較したり分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実や関係ととらえる。【整理・分析】➡課題の解決に向けて、根拠をもって自分の考えをもち、相手に伝わるように工夫しながら表現する。【まとめ・表現】
※この探求のプロセスを小単元ごとに繰り返し、自分事として課題意識を高めていくようにする。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○生活経験や他教科とのつながりをもたせた学習計画を立てる。○時間割の工夫や他の学級・学年の内容を把握し活動の多様化に対応できるようにする。
○地域の素材や地域の環境を積極的に活用できるよう、日常的に外部との連携を図る。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○情報・情報技術を活用する資質・能力　○協働して問題を解決しようとする資質・能力　○言語により分析し、まとめ、表現する資質・能力
○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

道徳

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

○道徳的諸価値の意義及びその大切さなどを理解すること
○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、 自己の（人間としての）生き方についての考えを深めること
○自己の（人間としての)生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

○道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止める。
○他者の多様な考え方や感じ方に触れることで、自分の特徴などを 知り、伸ばしたい自己を深く見つめる 。
○生き方の課題を考え、それを自己（人間として）の生き方として 実現しようとする思いや願いを深める。

子ども達の実態

○素直に物事を考えることができる。
○自分の思いや考えを伝えることにやや課題が見られる。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○一人ひとりの家庭に配慮し、心に寄り添う。
○全学年・学校での連携支援。

目指す子ども達の姿

○道徳的価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力（道徳的判断力）
○人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情 （道徳的心情）
○道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え（道徳的実践意欲と態度）

何を学ぶか
○各教科等の教育課程の編成

○各教科で育む資質・能力の明確化
○教科横断的な学習の取組
○問題解決的な学習の充実
○「見通す・振り返る」活動の充実

○各教科等の授業の実施

○道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする
○他者との関わりや身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己について深く見つめる
○これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として表現していこうとする思いや願いを深める

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○校内研修の充実を図り、全職員が道徳科の授業公開を行う。　○個に応じた適切な学習環境を整える
○全職員で情報の共有（新学習指導要領、主体的・対話的で深い学び、学習評価）○保護者、教師が連携して取り組む。
○保護者との連絡を密にとり、事実や指導の在り方を正確に伝え、互いの思いを共有し、意識の共通理解を図る。

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○道徳的価値を実現しようとする実践意欲と態度を養うことができるよう工夫していく。
○各教科で育む資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントを行う
○汎用的な資質・能力

【各教科等のグランドデザイン】

特別活動

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

○人間関係形成：集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものに形成すること
○社会参画：集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとすること
○自己実現：集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとすること

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

○なかよし活動を通して、人間関係を自主的、実践的によりよいものに形成しようとしたこと
○様々な問題を主体的に解決しようとすること
○自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとしたこと

子ども達の実態

○今ある活動を、楽しむことができる。
○新たなことに挑戦して主体的に取り組むことには、課題がある。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○受容する雰囲気づくり
○それぞれの児童に合わせた活躍の場の設定

目指す子ども達の姿

○『ひかる』　集団の一員として友達と一緒に楽しく活動する姿
○『つながる』　児童や教職員だけではなく、地域などの人とつながろうとする姿
○『やりとげる』課題解決に向かおうとする姿

何を学ぶか
○各教科等の教育課程の編成

○児童や教職員だけではなく、地域などの人とつながることに重点をおいて学ぶ。
・学級活動　・児童会活動　・クラブ活動　・学校行事

どのように学ぶか
○各教科等の授業の実施

○人間関係形成、社会参画、自己実現
３つの視点を大切にした活動をする。
○決めたことの実践→振り返り→次の課題解決
以上の PDCA サイクルを実行する。
○異年齢集団交流を意図的・計画的に行う。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○「なかよし活動」を、年間を通して計画的に実施する。
○全職員で代表委員会の内容などの情報の共有し、連携して取り組む。
○ペア学年との取組
○運営委員会の取組

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○他教科とのつながりをもたせた学習や活動の設定をする。　○汎用的な資質・能力　○人とつながるベイスとなる「つながり力」

【各教科等のグランドデザイン】

YICA

何ができるようになるか
○外国語活動・外国語科で育成する資質・能力

○日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることができる。
○自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
○主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

何が身に付いたか
○外国語活動・外国語科での学習評価

○毎回のあいさつの活動を充実させたり、新しい学習に入る前にこれまで使ってきた表現を確認したりしたことで、コミュニケーションに必要な基本的な表現が身に付きつつある。
○場面設定を工夫して「伝えたい」思いが高まるようにしたり、分からない言葉をAETに聞くなどして安心感を高めたりしたことで外国語を使って楽しくコミュニケーションをとろうとする姿が増えつつある。

子ども達の実態

○はじめての活動や英語表現に対して不安が大きい児童がいる。低学年では進んで活動に参加する児童が多いが、高学年になると、内容の難しさや単語の量の多さから、学習意欲が低下してしまう児童もいる。また、アルファベットを読んだり、書いたりする活動では習熟度に差が見られる。

子ども達の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子どもへの指導

○安心してコミュニケーションを楽しむことができるような環境づくり。
○苦手意識をもっていても学習に向かうことができるような支援の手立て。

目指す子ども達の姿

○英語を使ったコミュニケーションを楽しもうとする姿。
○目的をもって、学習した表現を使いながら進んで会話をしたり、書いたりする姿。

何を学ぶか
○外国語活動・外国語科の教育課程の編成

○相手との相互理解を深め、文化の多様性を尊重しようとする態度
外国語活動…身近で簡単なことについて自分の思いや考えを聞いたり話したりする力、外国語の音声や基本的な表現、日本語との音声や語順の違い
外国語科…目的や場面、状況などに応じて自分の思いや考えを聞いたり話したりする力、文字や単語から簡単な文章の内容を読んで理解する力、語順を意識しながら書いて伝える力

どのように学ぶか
○外国語活動・外国語科の授業の実施

○各学年での学びを積み重ねながら語彙を増やす。
○既習事項を生かして、「伝えたい」という意欲や必要感をもって活動する。
○体験的な活動や実生活の中での場面を想定した学習活動を通して、相手意識を明確にしながらコミュニケーションを図ろうとする。

実施するために何が必要か　○指導体制の充実、家庭・地域との連携･協働

○担任が積極的に授業づくりに関わる姿勢　○AETとの綿密な打ち合わせ　○IUIとのかかわり

各教科等横断的な視点に立った資質･能力の育成

○他教科での知識や活動とのつながりをもたせた学習や活動の設定　○汎用的な資質・能力